

『藤井聡太 八冠への道』

タイトル挑戦が実現するのは20年の棋聖戦でした。棋王と王将のタイトルも保持し三冠だった渡辺明(現九段)を相手に、史上最年少でのタイトル挑戦を決めると、五番勝負では、「AI(人工知能)超えの手」とも評されるような手も披露。3勝1敗で初タイトルを史上最年少で獲得する。

棋聖戦に続く王位戦でもタイトル挑戦を決め、瞬く間に最年少での二冠を達成。その後、初めての防衛戦となった棋聖戦で3連勝のストレート防衛。

豊島叡王(当時)に挑戦した叡王戦五番勝負を3勝2敗のフルセットで制し最年少で三冠を達成。いまだタイトル戦不敗が続く藤井七冠が、タイトル戦で最終局を戦ったのはこの時の叡王戦だけでした。

竜王を奪取して最年少四冠を達成。竜王を獲得したことで、プロ棋士内の序列も1位となりました。

四冠対三冠の対決として注目された、渡辺明王将(当時)との王将戦七番勝負を4連勝のストレートで制して最年少で五冠に。

初の後輩棋士(プロ入り順)とのタイトル戦となった出口若武六段との叡王戦は3連勝で防衛。

棋王戦で渡辺明棋王を3勝1敗で破って六冠を達成。第3局の最終盤で詰みを逃してうなだれ、逆転負けを喫するという珍しい場面も。羽生九段との王将戦と並行してのタイトル戦で疲労も感じられる中でも結果を出しました。

5歳で将棋を始め、6歳の時に「名人になりたい」と書いたことがある藤井挑戦者。4勝1敗でシリーズを制し、幼い頃の夢をかなえて最年少の名人・七冠に。藤井七冠とタイトル戦で戦い続けてきた渡辺明前名人はついに無冠となりました。

獲得までプロ入りから最低5年はかかる名人にも23年6月に40年ぶりの記録更新となる最年少で就き、残る唯一のタイトルへの挑戦として今回の王座戦五番勝負に挑み見事3勝1敗で王座を獲得し8冠となりました。



	2020年	21	22	23
棋聖	奪取(7月) 一冠	防衛		
王位	奪取(8月) 二冠	防衛		
叡王		奪取(9月) 三冠	防衛	
竜王		奪取(11月) 四冠	防衛	10~12月に防衛戦
王将			奪取(2月) 五冠	防衛
棋王				奪取(3月) 六冠
名人				奪取(6月) 七冠
王座				奪取(10月) 八冠